



噴煙を上げる火口の迫力は圧倒的です



復旧が待たれる阿蘇神社の山門(写真は被災前の様子)



阿蘇の景色を望む露天風呂は格別(内牧温泉郷)



サイクリングツーリズムも阿蘇観光の目玉に



ASO復光スタディプログラムの語り部活動

雄大な景観は阿蘇の大きな魅力の一つ

磨き上げ進む体験型素材の活用を 風評被害払拭し団体旅行需要回復へ

熊本地震の風評被害も残る阿蘇市では、団体旅行需要の回復などを目指して体験型観光の拡充に取り組んでいます。周辺自治体との連携も含め、阿蘇の魅力積極的にアピールしていく方針です。

魅力掘り下げて内外へ発信

阿蘇市など熊本県の8市町村と別府市など大分県の5市町に広がる「阿蘇くじゅう国立公園」は昨年7月、環境省が進める「国立公園満喫プロジェクト」のモデル公園として、全国7つの国立公園とともに選定されました。

同プロジェクトは、国立公園の魅力を高めて外国人旅行者を誘致するもので、選理由としては、1000年以上も続く野焼きによる広大な草原などの観光資源の潜在的価値が高いことや災害からの復興などが挙げられています。

阿蘇市観光課の秦美保子課長は、「熊本地震の後、阿蘇を訪れる旅行需要の中心だった団体旅行が半分程度しか回復していません。特に、修学旅行と訪日旅行の対策を優先してきて、モデル公園に選定されたことは大きな追い風です」と強調。「主要道路は依然として寸断されただけで、厳しい状況は続くものの、需要

回復の遅れは、風評被害の影響も大きい。しっかりと目的を持って来てもらえるように、阿蘇の魅力掘り下げて内外へ積極的に発信していきたい」と語っています。

周辺自治体との連携も視野に

阿蘇市では、特に、雄大な阿蘇の自然に触れてもらう体験型の観光素材の開発に力を入れており、トレッキングやサイクリングなどのメニューを拡充し、「景観を楽しんでもらうのに加え、阿蘇での“遊”の部分も掘り下げて、変化が進む観光の形態や新しいニーズに対応していく」(秦課長)方針です。

また、JR九州の阿蘇駅前にある「道の駅阿蘇」を運営するNPO法人ASO田園空間博物館では昨年の夏から、地域住民らが熊本地震の体験を伝える語り部活動や地震で生じた断層の亀裂をガイドと回るサイクルツアーなど「ASO復光スタディプログラム」を実施しています。ASO田園空間博物館によると、最近では、県内や九州隣県だけでなく、近畿圏の消防団が同プログラムに参加するなど、阿蘇観光における防災・減災ツーリズムの可能性も示しているようです。

秦課長は、「阿蘇くじゅう国立公園の周辺自治体との広域連携も進め、遠回りでも時間をかけて地域の資源や素材を磨き上げていけば、必ずまた阿蘇に来てもらえるようになるはず」と自信を示しています。